

グローバルイシューを考える

-無形文化遺産^{注1}「言語」の消滅危機-

練 詩安 (リム シオン)

金沢大学人間社会学域国際学類 (マレーシア)

はじめに

人類の文明は数千年にわたって、多様な言語を生み出し、世界には約 6800^{注2}の言語が話されている。しかし、この全ての言語は、世界中の 77 億人によって均等に話されているわけではない。坂本は「その 96 パーセントの言語 (約 6530 言語) の話し手の総数が世界人口のわずか 4 パーセントにすぎないのにたいし、わずか 4 パーセントの言語 (約 270 言語) の話し手だけで世界人口の 96 パーセントを占めている。」(坂本 2016) と指摘している。現在は、約 2500 の言語は危機言語として位置付けられており、今世紀末 (21 世紀の末) に消滅してしまう恐れがあると考えられている^{注3}。

本論文は、まず危機言語の課題が近年、注目されるようになった背景と現状を述べ (第 I 節)、言語消滅の原因を論じる (第 II 節)。最後に、なぜ言語を守らなければならないのかを議論して、言語消滅による影響を示す (第 III 節)。なお、本論文で定義する「言

^{注1} ユネスコ無形文化遺産の定義による、手工芸や祝祭のほか、口頭伝承の言語も無形文化遺産の一種である。

^{注2} 世界の言語の数は明確に定めておらず、色々な見解があるが、一般的に 6000 から 7000 語ぐらいあると考えられる。筆者は参考論文「危機言語研究の現在」に基づいて、約 6800 語があるものと仮定する。

^{注3} ユネスコの『消滅の危機にある世界の言語地図 Atlas of the World's Languages in Danger』2009 年版より

語」とは、国際連合教育科学文化機関（以下、ユネスコ）の定義に基づいて、「言語」と「方言」を区別せず、「言語」として統一している。

I、危機言語研究の背景と現状

危機言語に関する研究が多くなったのは1990年代からであり、特に1992年の国際言語学会議をきっかけに、言語消滅の課題が注目されるようになった。そして翌年、ユネスコが「危機言語プロジェクト」を始動させた。ユネスコは2009年に第3版としてのオンライン版アトラス^{注4}を公表している。ユネスコの調査によると、2019年の時点では、2464の言語^{注5}が消滅の危機にさらされている。ユネスコは言語の消滅危機程度を6つの段階で分けて、以下のように示している：

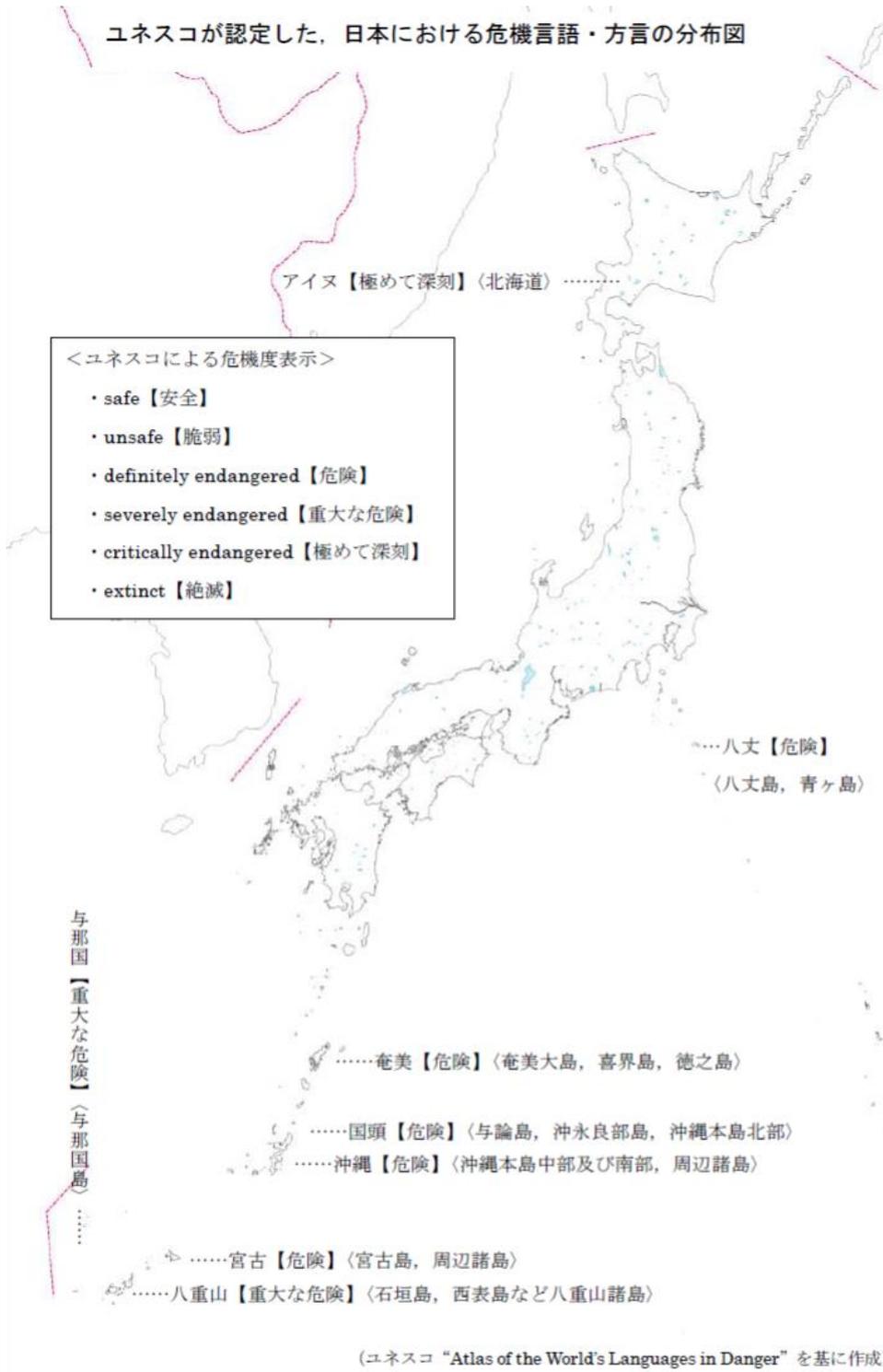
1. 安全(safe)：言語がすべての世代によって話されている。世代間の継承に妨げがない。>>アトラスに表示されていない。
2. 脆弱(vulnerable)：ほとんどの子供たちがその言語を話しているが、特定の場面に限られている（家庭内しかその言語を使用しないなど）。
3. 危険(definitely endangered)：言語はもはや家庭で母語として習得されていない。
4. 重大な危機(severely endangered)：言語が祖父母以上の世代でだけ話されている。親世代では理解されるとしても、同世代の人や子供世代との間で使用されない。
5. 極めて深刻(critically endangered)：祖父母以上の世代でさえ、その言語を流暢に話せない場合が多い。
6. 消滅(extinct)：その言語の話者がいない。>>1950年代以降消滅した言語はアトラスに収録されている。

日本では、アイヌ語をはじめ、八重山語、与那国語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語といった8つの言語が消滅の危機にある言語として掲載されている。特にアイヌ語の話者は僅かの15人に過ぎず、「極めて深刻」に認定された。

^{注4} 第1版は1996年に公表されて、第2版は2001年に公表された。いずれもプリント版だった。第3版のプリント版は2010年に発行された。

^{注5} 1950年以降消滅した228の言語も含める。

ユネスコが認定した、日本における危機言語・方言の分布図



出典：文化庁-「消滅の危機にある言語・方言」

II、言語消滅の原因

フランス言語学者アジェージュは、言語を消滅していく道へ導いた主な原因を大きく3つに分かれている。それぞれは1) 物理的原因、2) 経済的・社会的原因、3) 政治的原因と述べられている。

1) 物理的原因

言語は話者が亡くなり、かつ十分な文書記録がない時に消滅する。細かく分類すると、自然災害や大量虐殺による話者の消滅と話者を強制移住させることによる部族語の消滅の2つがある。前者の例を挙げると、1932年にエルサルバドルで残酷な先住民の大虐殺により、2万5千人の犠牲によって、カカオベラ語とレンカ語が滅びてしまった。後者はオーストラリアやアメリカの先住民が強制移住させられた結果、もとの部族語が移住先で使われなくなり、滅びてゆく例がある。(アジェージュ著・糟谷訳 2004)

2) 経済的・社会的原因

経済活動によるグローバリゼーションは多言語の習得を促進すると思う人もいるだろう。しかし、2014年9月3日のBBCニュースサイトで、「経済成長が言語消滅を促した」^{注6}という、予想に反した記事が掲載された。その記事によると、経済的により発展している地域(北アメリカやヨーロッパ等)での少数言語が消滅する恐れは最も高いという。アジェージュは同じような観点を述べて、アメリカ合衆国での例を挙げた。アメリカの歴史で、「ニュー・ネーデルランド」という入植地があったにもかかわらず、ニューヨーク州やニュージャージー州でオランダ語が消えて去ったのは、経済のメカニズムと行政組織の担う言語は英語だからだという。また、オランダ語だけでなく、アメリカの黒人コミュニティでもアフリカの言語も残らなかった。(アジェージュ著・糟谷訳 2004)

経済的に繁栄であればあるほど、諸言語の中で経済的な優劣の差がついてしまう場合が多い。その地域の人たちは経済メカニズムの流れに従って、ある言語しか話さなくなる。やがて、その言語が「強い言語」となり、地域の経済・社会を支配するようになるのに対して、「弱い言語」が徐々に話されなくなる。

3) 政治的原因

近代国家は国民統一という目的で、単一言語政策を打ち出し、少数言語の使用を抑圧することが多い。アメリカ合衆国で19世紀末から、先住民を「同化」や「文明化」するため、先住民が学校での部落語の使用を禁止していた。先住民は自分たちの母語の使用は

^{注6} 筆者の訳。原文は“Economic success 'drives language extinction'”である。

いかなる未来がないと思ひ、次世代に母語を教えなくなった。このような教育体制は1970年代以降になくなったが、それによる先住民言語への打撃は依然深刻である。(アジェージュ著・糟谷訳 2004)

III、言語を保護する理由と言語消滅の影響

「言語が消滅危機に瀕するのは、それらの言語は重要ではなく、時代に淘汰されたから、守らなくてもいいのだ」という考え方を持っている人は少なくはない。しかし、言語の消滅は人間の社会にどのような影響を与えるのかを長期的な視点から考えなければならない。

言語は人間精神の産物で、一つ言語からその文化の歴史や社会性を見出すことができる。もし人間の社会では、一つの言語しかなかったとしたら、その単一の言語構造から人間の精神運動を探究することも限られている。個々の言語には個別的な特性と独自の表現があり、異なる言語に見えない性質を持っている。他言語に接触したり、研究したりすることによって、人間性を豊かにさせることができると言っても過言ではない。言語を失うこととともに、人間の多様性と創造力も衰退すると言えよう。また、学術的視点から考えると、言語学で言語の原理を探究するには、できる限り多くの言語を材料として参考しなければならない。もし少数言語が死に絶えたら、言語学も危うい状況になるだろう。

おわりに

本論文では、危機言語の現状を紹介し、言語消滅の3つの理由を論じた。そして、論点になっているのは、危機言語を保護すべきかどうかである。筆者の見解では、文明社会というのは、他言語を消滅するのではなく、維持して保護するものである。人間の社会・経済活動の下で、絶滅の危機に迫られた野生生物を保護するのと同様に、言語の多様性も重要視されるべきである。言語はある文化の伝承手段であり、「民族のDNA」に例えられてよい。言語が消滅してしまうと、その文化も消える危機に陥り、人間の社会と人間科学にとって非常に重大な損失である。

参考文献

- 坂本邦彦（2016）「危機言語研究の現在－ユネスコアトラスに関する C.モーズリーの論考－」、『尚美学園大学総合政策研究紀要』第 28 号、pp. 87-99
- クロード・アジェージュ（著）・糟谷啓介（訳）（2004）『絶滅していく言語を救うために－ことばの死とその再生』、白水社
- ジニー・ナイシュ（著）・伊藤真（監訳）（2016）『滅びゆく世界の言語小百科』、柘風舎
- UNESCO Intangible Heritage, “Oral traditions and expressions including language as a vehicle of the intangible cultural heritage”, 閲覧日 2019/10/09 < <https://ich.unesco.org/en/oral-traditions-and-expressions-00053> >
- UNESCO Atlas of the World's Languages in Danger、閲覧日 2019/10/09 <<http://www.unesco.org/languages-atlas/index.php?hl=en&page=atlasmap>>
- 文化庁、「消滅の危機にある言語・方言」、閲覧日 2019/10/10 <http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html>
- コトバンク、「消滅危機言語」とは、閲覧日 2019/10/10 <<https://kotobank.jp/word/%E6%B6%88%E6%BB%85%E5%8D%B1%E6%A9%9F%E8%A8%80%E8%AA%9E-667822>>
- BBC News, “Economic success 'drives language extinction'” 3 September 2014, Rebecca Morelle, 閲覧日 2019/10/11 <<https://www.bbc.com/news/science-environment-29037168>>